



# いいわけ



広瀬 瑞記

飯田 杏子の場合

## 飯田 杏子の場合

---

— あなたは何を拒むの

「わたしは・・・・わたしは深い人間関係を築くことを拒否する」

— あなたは何を望むの

「わたしが望むものは・・・・」

---

今日は会社の同僚の結婚式。30を前にして女友達が「駆け込み寺」とばかりに「結婚」という選択肢を選んで行く。そして私は属に言う「負け組」。別に望んでそうなった訳ではない。タイミングがなかっただけだ、と自分に言い聞かせるように披露宴から自宅へ帰ってきた。2次会への参加も求められたけどそれは「結婚」に憧れる子だけが出ればいいのよ、とばかりに早々に岐路についた私を家で待ってくれるのは絶対私を裏切らないパキラと冷蔵庫の中で冷えている缶ビールくらい。

こんな私は枯れてるのかもしれない。恋愛なんて全くしていない。そう、あの時の彼から。

また元彼から電話があった。ちょうど寝る頃だったから深夜の0時ごろ。今度もいつもと同じ内容の電話。「よりを戻したいんだ。やっぱり俺にはお前だけだということがよく分かった。お前しかいないんだ」だって。これで何度目よ？ 覚えている限りで5回くらいなはず。あまりにも多すぎて全然覚えていないわ。それにしてもよく何度もこんなクサイ台詞を言えるものね。「俺にはお前だけだ！」なんて。今時ドラマでもそんな台詞言わせないわよ。言ったとしても、おばさま方がハマってる韓流ドラマくらいでしょ？ 歯が浮いて逆に気持ち悪いわ。

そんなこと言う男なんて。

彼はどうか知らないけれどわたしは明日からまた仕事が始まるし、アイツに併せて話をするのがとても馬鹿げてみえたから、こう言ってやったの。

「お前はわたしにとって必要不可欠な人じゃないの。何度も電話されてきてはこっちも困る。あなたとのことは終わったの。だから何度も電話されても困る」って。

そしたらどうしたと思う。無言で電話を切ったの。無言で。

まぁ～それから長々と話をされることを思えば、あっさり諦めてくれるのならそれに越したことはないけれど。ただ、自分から電話をかけてきて、無言で電話を切るなんて失礼な話よね。

たぶん、いつもと違う反応をしたからかなりショックを受けたんじゃない。

ざまぁ～みる！って感じよ。

自分のことばかりを考えてわたしの都合なんていつも二の次。だからこんな変な時間に電話をかけてくるのよね。

どれくらいぶりの電話だと思う。半年ぶりよ！

そんな半年ぶりの電話で第一声が「よりを戻したい」って。わたしたちが別れた原因をアイツがしっかり分かっていないから言える台詞なのよね。男ってホント、自分本位の男性優位主義なヤツばかり。コイツも、ソイツもみい～んな。アイツだって付き合っているときから、ずっと。

わたしが「すごぉ～い」とか「頼れる！」って言わないと必ず機嫌が悪くなってさ。

付き合っている頃だから、わたしはアイツの彼女であり、パートナーなはずなのにアイツはわたしを自分の所有物としてしか考えていなかった。わたしはそれを望んでいたわけではないのに、アイツはそれがわたしの望みだと勝手に思い込んで、勝手に行動をして、わたしに強制した。

でも、今回これだけはっきりとわたしの態度を示したのだから、もうアイツから電話がくることはなさそうよね。あぁ、本当にせいせいするわ。だって、これでアイツとの縁が切れるわけでしょ。これほど喜ばしいことってないわ。これほど晴れやかな気分になったことなんて今まで一度としてなかった。今まで感じたことのない安らぎと喜びを感じてしまう。ホント、もっと早く言ってやれば良かった。

— 本当にそう思ってるの？